

地域・在宅看護論実習

実習要項

地域・在宅看護論実習

I 実習目的

地域看護活動を通して、地域で暮らしている人々の健康上の問題と関連する諸問題を理解し、看護の機能と役割を学ぶ。

II 実習目標

1. 地域・在宅看護活動を通して、「暮らし」が理解できる。
2. 地域・在宅看護活動を通して、暮らしが健康に与える影響を理解する。
3. 地域・在宅看護活動を通して、対象が活用・利用している社会制度やサポートがわかる。
4. 地域・在宅での暮らしにおける看護の役割がわかる。
5. 地域・在宅看護活動を通して、地域でくらしている対象を支える社会制度やそこに関わる多職種連携・協働がわかる。
6. 地域・在宅看護から、対象の主体性やニーズが理解でき、継続看護についてわかる。

III 実習の構造

科目	単位・時間数	実習時期
地域・在宅看護論実習 I	2 単位 90 時間	1 年生 11 月
地域・在宅看護論実習 II	3 単位 90 時間	3 年生

地域・在宅看護論実習 I

I 実習目標

1. 地域・在宅看護活動を通して、「暮らし」が理解できる。
2. 地域・在宅看護活動を通して、暮らしが健康に与える影響を理解する。
3. 地域・在宅看護活動を通して、対象が活用・利用している社会制度やサポートがわかる。

II 評価規準（めざす姿）

1. 地域の対象の暮らし・思いがわかる。
2. 地域で暮らしている対象の人との関わり・つながりについて理解できる。
3. 地域で暮らしている対象が活用・利用している制度やサポートがわかる。
4. 地域での活動で、倫理的規範を持って行動できる。

III 単位と時間数及び実習場所

2単位 90 時間

	実習場所	実習時間	実習時期
1	社会福祉法人 清水福祉会 特別養護老人ホーム 柏尾の里	2 単位 90 時間 左記の実習場 所で3～4か 所の実習を行 う	1 年生 11 月
2	社会福祉法人 清承会 特別養護老人ホーム 白扇閣		
3	社会福祉法人 静清会 特別養護老人ホーム 羽衣の園		
4	特定非営利活動法人 WAC 清水さわやかサービス		
5	NP0 法人 たからじま ①B 型就労支援施設 あとりえ ②生活介護 からふる ③放課後等デイサービス やんちゃりか		
6	社会福祉法人 玉柏会 相談支援事業所すずらん		
7	NP0 法人 清水障害者サポートセンターそら ①放課後等デイサービス どれみ ②生活介護 ここ・そら		
8	特定非営利活動法人 しいの木 ワークステーション どんぐり		
9	特定非営利活動法人 心明会 いはら共同作業所		
10	静岡市社会福祉協議会 ①デイサービスセンター はーとびあ清水 ②訪問入浴サービス はーとびあ清水 ③デイサービスセンター すこやか ④訪問入浴サービス ゆい ⑤清水中央子育て支援センター		
11	訪問看護ステーション れん 合同会社アーサンシエル ノエルイースト訪問看護ステーション 訪問看護ステーション 駿河（令和7年度は受け入れなし）		
12	児童発達支援 放課後等デイサービス そらまめ		
13	特定非営利活動法人 ぴゅあ		

IV 学習内容・学習方法

学習活動	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料
対象のライフスタイル・時間の使い方や人間関係を対象から聞く。	<各施設共通> ・地域・在宅看護論演習で作成したポートフォリオを振り返る。ポートフォリオから「地域・在宅看護論」における地域にある人々の「暮らし」を想起する。 ＊対象とコミュニケーションをとり、対象の暮らしや生活への思い ＊対象のライフスタイル（生活様式・方法・人生観・価値観・習慣などを含めた対象の背景や生き方） ＊現在の暮らしと今までの暮らし ・聞いた思いを、自己の考え、講義で学んだ知識と事前学習などを関連させ、表現する。	地域の対象の暮らし・思いがわかる。	・事前学習 ・地域・在宅看護記録 ・面談 ・インパクトマップ
地域で暮らしている対象の人との関わり・つながりについて考える。	<各施設共通> ・どのような人・物・制度がつながっているかを知識やインタビュー・教えてもらいながら明らかにする。→対象者、指導者、グループメンバー、教員など ・なぜこの施設やサポートを活用しているかを対象者（本人また家族）や指導者から聞き、対象とそれらのつながりや背景を明確にする。	地域で暮らしている対象の人との関わり・つながりについて理解できる。	・事前学習 ・地域・在宅看護記録 ・面談 ・インパクトマップ
地域で暮らしている対象が活用・利用している制度やサポートを調べ表現する。	<各施設共通> ・実習初日に施設・対象の特徴、1日の流れなどを知り、自分の動きをイメージできるようにオリエンテーションを受ける。（事前オリエンテーションを受けている施設もある） ・実習場所で、対象と施設担当者に直接、サポートや制度についてインタビューを行う。 ・対象の思いと実際のサポート制度について比較検討を行い記録へ明記する。	地域で暮らしている対象が活用・利用している制度やサポートがわかる。	・事前学習 ・地域・在宅看護記録 ・面談 ・インパクトマップ
地域での活動で倫理的規範をもち行動する。 ・マナー ・守秘義務 ・時間などの守り事	<各施設共通> ・施設内で知りえたことについては、守秘義務があることを理解し厳守できる。 ・施設内に入る時や出会う人に自ら挨拶を行う。 ・実習中の言葉使いに留意して実習に臨んでいる ・実習にふさわしい服装を整えている。 ・対象や施設の方への態度は、好感が持てる態度で臨んでいる。 ・実習時間などの予定されている時間に対して、ルールが守ることができる。また、何かの事態があった時は、連絡・報告・相談ができる。 ・施設担当者・看護教師・学生同士で情報共有が行え、報告・相談・連絡ができる。	地域での活動で、倫理的規範を持って行動できる。	・地域・在宅看護記録 ・面談

地域・在宅看護論実習 (前半、後半)

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30 ～ 16:15	各実習場所	・地域での暮らしや暮らしをサポートする様々な場を実際に訪問・事業体験をし、暮らしの中の「支え」を理解する。 ・関わりの中から、地域で生活する人々の健康状態、生活環境を知る。 ・地域で生活する人々の生活を支援するための事業の実際を知る。 ・事業の中での看護師・専門職の活動の実際を知り、看護の役割について考える。 ・ミーティングや振り返りを行い、疑問や体験を意味付ける。	8:30 現地集合 出欠席確認 オリエンテーション (各施設で実習開始・終了時間が異なります。オリエンテーション時に確認をして下さい) 実習場所のスタッフとともに行動し、地域の人々の「暮らし」から保健・福祉の意義と看護の役割について考える。

<留意事項>

1) 服装・注意点について

- ・服装は、実習場所の指定となる。
- ・その他、持ち物は事業内容に沿って準備する（オリエンテーション時に説明または別紙参照）。
- ・各事業では、実習担当者や事業担当スタッフの指示で動くようにする。
- ・地域住民に関する情報や相談内容は絶対にもらすことのないように留意する。
- ・実習中は、私語を慎み、疑問点、不明点は積極的に質問する。
- ・挨拶をしっかりと行うこと。

2) 振り返りについて

- ・日々の振り返りは、実習指導者・教員と相談をして決定する。

3) 最終提出物

- ・指定された日時に担当教員に提出。
 - ☐ 評価表
 - ☐ 出席簿
 - ☐ 私のインパクトマップ 前半用
 - ☐ 私のインパクトマップ 後半用
 - ☐ 実習記録Ⅰ、Ⅱ

※個人情報漏洩を防ぐため、実習中に記入したメモ帳は回収し廃棄します。

4) まとめ・・・在宅看護論演習の授業内で行う

<前半まとめ>

- ① 前半5日間実習後、「私のインパクトマップ（前半用）」を作成する。用紙は授業で配布する。
 - ・ 必要物品： 5日間の実習記録
 - ・ 作成後、グループメンバー同士で発表・意見交換を行う。
- ② 実習施設についての情報伝達と共有をする。

私のインパクトマップ（前半用）（A3）

<後半まとめ>

- ・ 後半5日間の実習から「私のインパクトマップ（後半用）」を作成する。用紙は授業で配布する。

私のインパクトマップ（後半用）（A3）

<実習全体のまとめ>

- ・ 実習全体の学びをグループで共有し、お互いの学びを深め、
「地域で暮らすということは_____である」をテーマとしてグループで模造紙1枚にまとめる。
- ・ 発表・質疑応答を行い、さらにクラス全体で学びを共有する。

地域で暮らすというということは_____
_____である。（模造紙）

VI 地域・在宅看護論実習 I 計画 (例)

	／	／	／
	デイサービス	デイサービス	デイサービス
実 習 内容	・事業所の説明 (OT) ・各種事業をスタッフと同行またはケアを行う	・各種事業をスタッフと同行またはケアを行う	・各種事業をスタッフと同行またはケアを行う
提 出 記録		地域・在宅看護論実習記録	地域・在宅看護論実習記録
c f	実習を行ってみて	テーマは自分たちで決定	テーマは自分たちで決定
	／	／	／
	特別養護老人ホーム	特別養護老人ホーム	地域・在宅看護論実習
実 習 内容	・事業所の説明 (OT) ・各種事業をスタッフと同行またはケアを行う	・各種事業をスタッフと同行またはケアを行う	*地域・在宅看護論実習の授業です。実習での学びのまとめ、学生同士での共有を行います。
提 出 記録	地域・在宅看護論実習記録	地域・在宅看護論実習記録	地域・在宅看護論実習記録
c f			
	／	／	／
	地域・在宅看護論実習	放課後等デイサービス	放課後等デイサービス
実 習 内容		・事業所の説明 (OT) ・各種事業をスタッフと同行またはケアを行う	・各種事業をスタッフと同行またはケアを行う
提 出 記録	地域・在宅看護論実習記録	地域・在宅看護論実習記録	地域・在宅看護論実習記録
c f	地域・在宅看護論実習記録	実習を行ってみて	テーマは自分たちで決定
	／	／	／
	訪問看護ステーション	訪問看護ステーション	訪問看護ステーション
実 習 内容	・各種事業をスタッフと同行またはケアを行う	・事業所の説明 (OT) ・各種事業をスタッフと同行またはケアを行う	・各種事業をスタッフと同行またはケアを行う
提 出 記録	地域・在宅看護論実習記録	地域・在宅看護論実習記録	地域・在宅看護論実習記録
c f	実習を行ってみて	テーマは自分たちで決定	テーマは自分たちで決定

*地域・在宅看護論実習は前半と後半に分かれています。実習と実習の間に、学校で地域・在宅看護論実習の授業を行います。実習での学びの共有・まとめ・発表を行い、後半の実習に向けての課題を明確にしていきます。

学習活動	具体的な評価規準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一步努力を要する
対象との関わりからライフスタイル・時間の使い方や人間関係を聞く。	地域の対象の暮らし・思いがわかる。	対象理解 探求心	事前学習 在宅看護記録 面談 インパクトマップ	暮らしを営んでいる対象のライフスタイル（生活様式・方法・人生観・価値観・習慣などを含めた対象の背景や生き方）・時間の使い方や人間関係についての思いを対象の様子から知り、まとめを自己の言葉で表現できる。(30)	暮らしを営んでいる対象のライフスタイル（生活様式・方法・人生観・価値観・習慣などを含めた対象の背景や生き方）・時間の使い方や人間関係についての思いを対象の様子から知り、記載できる。(20)	暮らしを営んでいる対象のライフスタイル・時間の使い方について対象の様子から知り、記載している。(10)	暮らしを営んでいる対象の思いを表現している。(5)
地域で暮らしている対象の人との関わり・つながりについて考える。	地域で暮らしている対象の人との関わり・つながりについて理解できる。	対象理解 探求心	事前学習 在宅看護記録 カンファレンス インパクトマップ	家族との関係や家族以外の人とのつながり、地域とのつながりがわかり、具体例を挙げながら表現している。(20)	家族との関係や家族以外とのつながり、地域とのつながりがわかり、表現している。(15)	家族との関係や家族以外とのつながりがわかり、表現している。(10)	地域で暮らしている対象の人とのつながりを表現している。(5)
地域で暮らしている対象が活用・利用している制度やサポートを調べ表現する。	地域で暮らしている対象が活用・利用している制度やサポートがわかる。	対象理解 実践力 倫理観	在宅看護記録 カンファレンス 面談 インパクトマップ	地域で暮らしている対象が活用・利用している制度やサポートについて自ら調べ、また指導者に質問をし、対象の暮らしにおける必要性がわかる。(20)	地域で暮らしている対象が活用・利用している制度やサポートについて調べることができ、対象にとっての必要性がわかる。(15)	地域で暮らしている対象が活用・利用している制度やサポートについて調べることができる。(10)	地域で暮らす対象が何かしらのサポートを使っているのがわかる。(5)
地域での活動で倫理的規範をもち行動する。	地域での活動で、倫理的規範を持って行動できる。	調整力 探求心 倫理観	在宅看護記録 カンファレンス 面談 実習態度	各施設で、挨拶・時間管理・コミュニケーション・記録の取り扱いなどが適切にでき、適時、相談・報告が施設担当者・教員や学生同士で行っている。(30)	各施設で、挨拶・時間管理・コミュニケーション・記録の取り扱いなどが適切にでき、適時、相談・報告が誰かしらに行っている。(20)	各施設で、挨拶・時間管理・コミュニケーション・記録の取り扱いなどが適切にできる。(10)	各施設で、挨拶・時間管理・コミュニケーション・記録の取り扱いなどができず、看護の対象や仲間を危険に曝している。(0)

欠課時間

()時間／90 時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点

担当教員サイン

地域・在宅看護論実習Ⅱ

I 実習目的

地域看護活動を通して、地域で暮らしている人々の健康上の問題と関連する諸問題を理解し、看護の機能と役割を学ぶ。

II 実習目標

1. 地域・在宅看護活動を通して、暮らしが健康に与える影響を理解する。
2. 地域・在宅看護活動を通して、対象が活用・利用している社会制度やサポートがわかる。
3. 地域・在宅での暮らしにおける看護の役割がわかる。
4. 地域・在宅看護活動を通して、地域でくらししている対象を支える社会制度やそこに関わる多職種連携・協働がわかる。
5. 地域・在宅看護から、対象の主体性やニーズが理解でき、継続看護についてわかる。

III 評価規準（めざす姿）

1. 対象が利用している社会資源の法制度・根拠を説明でき、状況の変化に応じて必要な社会資源を表現している。
2. 対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから、多職種連携の共同目標と協働が対象の生活を支えることがわかる。
3. 対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や多様な価値観をアセスメントし、共同目標の中で生活を支える看護の方向性が表現できる。
4. 様々な場での看護の特徴・機能や対象から地域における継続看護・看護の役割について多角的に理解し、表現する。

IV 単位と時間数及び実習場所

3年次3単位 90 時間

	実習場所	実習時間	実習時期
訪問看護ステーション実習	JA 厚生連訪問看護ステーションいはら JA 厚生連訪問看護ステーションきよみ 静岡県看護協会訪問看護ステーション清水 株式会社アース 訪問看護ステーションもも 合同会社連 訪問看護ステーションれん 医療社団法人医真会 訪問看護ステーション駿河（R7 のみ中止 ） 合同会社アーサンシェル ノエルイースト訪問看護ステーション	45 時間	3 年
保健福祉センター実習	静岡市清水保健福祉センター	20 時間	
地域連携実習	静岡市立清水病院地域医療支援室 静岡市立清水病院血液浄化センター しみず社会福祉事業団 障害者相談支援センターわだつみ WAC 清水さわやかサービス 居宅介護支援事業所	18 時間 （2か所）	
学内	まとめ・振り返り	7 時間	

V-1 学習内容・学習方法

学習活動	学習内容・学習方法	評価基準	評価資料
対象が利用している社会資源の説明ができる。	<各施設共通> 事前学習を基本に、地域・在宅看護論実習の施設場所について調べる。実際に実習を行った施設で、対象が利用している社会資源を下記の内容で深める。対象の状況に応じて、変わっていく社会資源を法制度や保険制度の視点で深め、対象を中心に支えるケアや制度を包括的に理解していく。 ・対象の健康状態 ・施設の設置主体・目的・法制度 ・施設の機能と役割 ・施設の対象者の特徴と業務内容	対象が利用している社会資源の法制度・根拠を説明でき、状況の変化に応じて必要な社会資源を表現している。	・事前学習 ・看護記録 I～VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)
対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから目標を共有する多職種連携や協働がわかる。	<各施設共通> 地域・在宅では多職種が働いており、各職種が対象の生活を支えるべく、協働・連携している。同じ施設内・他施設内など地域で暮らす対象を支えるために、職種・施設の連携・協働がどのように行われているかを学ぶ。 ・在宅看護に必要な連携機関 ・関連職種の役割、援助内容 ・病院・施設や地域住民間での連絡方法 ・病院・施設や地域住民間での連携の在り方 ・病院・施設や地域住民間での目標共有方法と支援 ・対象を取り巻く地域や家庭の特性、生活の状態 ・連携シートやケアプランの確認 ・多職種と看護師との関わりや、他職種からみた看護師像や、看護に対する思いについて ・地域住民はボランティアや民生委員など地域で生活をしている方を含みます。医療職だけではない、対象を支える人達の理解を深める ・質問や疑問がある場合は、自ら質問し調べることで知識や協働に関することが深まる。また、行かない実習場所については、グループメンバー同士で情報共有やカンファレンスなどで、積極的に体験や質問・意見を出し合い、お互いの理解につなげていくことが必要となる。	対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから、多職種連携の共同目標と協働が対象の生活を支えることがわかる。	・事前学習 ・看護記録 I～VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)
対象を主体としたニーズ・支援とその生活を支える看護について理解する。	<各施設共通> 在宅で生活・療養をしている対象の支援と看護について理解を深める。実習期間が、5日間～1日と場所によって違う中、対象が主体となって、そのニーズをどのように看護をして支援しているのかを学ぶ。そのためには、疑問に感じたことはそのままにせず、積極的に看護師や施設職員に聞き、理解を深めていくことが必要となる。また、対象を支え、ニーズにあった看護・医療技術も多く学べる機会である。技術の事前学習や積極的な質問・関わりを行うとより学びの深まりに繋がる。 ・対象が主体として考える看護 ・対象が在宅療養または在宅での生活を過ごすことに対する	対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や多様な価値観をアセスメントし、共同目標の中で生活を支える看護の方向性が表現で	・事前学習 ・看護記録 I～VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)

	希望やニーズ ・対象の自己決定における看護師の役割 ・在宅看護における家族への影響 ・対象の日常生活援助技術と医療処置に伴う看護技術 ・対象に対する指導技術（教育技術・相談技術） ・対象への関わり・配慮 ・職員の方の看護観や考え方を自ら聞いてみる。 ・看護過程の展開を行い、看護目標を設定することで対象に対する看護について考えを深める	きる。	
継続看護について多角的な視点を持ち、考えを深めている。	<各施設共通> 様々な施設で実習を行い、そこにある看護の役割を多角的な視点から考え深める機会である。 これらの施設では、医療と関わっている対象に継続的・予防的に関わる看護を考える。様々な立場や考えからみた看護の役割や意味を考えることが必要となる。 在宅では、看護師だけでは対象を支えることはできない。その中で、そこにある看護師の役割、看護師間の情報共有を考え・学ぶことで、柔軟で多角的な視点から「継続看護とは」を深めることができる。 ・施設間での看護の情報共有方法について ・各施設での看護師の役割 ・各施設での看護の特徴と機能 ・実習施設以外からみた看護の役割 ・看護の対象と特徴 ・施設間での継続看護に関する看護師の考えや思い	様々な場での看護の特徴・機能や対象から地域における継続看護・看護の役割について多角的に理解し、表現する。	・事前学習 ・看護記録 I～VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)

V-2 実習の具体的展開

<訪問看護ステーション> 9時間×5日

学習活動	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料
対象が利用している社会資源の説明ができる。	事前学習を基本に、訪問看護ステーションの役割や機能について調べる。実際に実習を行った施設で、対象が利用している社会資源を下記の内容で深める。対象の状況に応じて、変わっていく社会資源を法制度や保険制度の視点で深め、対象を中心に支えるケアや制度を包括的に理解していく。 ・訪問看護ステーションの概要 ・訪問看護ステーションの機能と役割 ・介護保険法、その他の保険制度 ・訪問看護のサービス機関と対象者 ・訪問看護ステーションの目的と看護内容 ・訪問看護ステーションの経営	対象が利用している社会資源の法制度・根拠を説明でき、状況の変化に応じて必要な社会資源を表現している。	・事前学習 ・看護記録 I～VI ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)
対象が利用している社会資源と地域住民の取	訪問看護ステーション実習では、看護師や各職種が対象の生活を支えるべく、協働・連携している。同じ施設内・他施設内など地域で暮らす対象を支えるために、職種・施設の連携・協働がどのように行われているかを学ぶ。	対象が利用している社会資源と地域	・事前学習 ・看護記録 I～VI ・カンファ

り組みから目標を共有する多職種連携や協働がわかる。	・在宅看護に必要な連携機関 ・関連職種の役割、援助内容 ・訪問看護ステーションと病院・他施設との連絡方法 ・訪問看護ステーションと病院・他施設との連携 ・訪問看護ステーションと病院・他施設との目標共有方法と支援 ・対象を取り巻く地域や家庭の特性、生活の状態 ・連携シートやケアプランの確認 ・多職種と看護師との関わりや、他職種からみた看護師像や、看護に対する思い	住民の取り組みから、多職種連携の共同目標と協働が対象の生活を支えることがわかる。	レンス ・面談 ・まとめ (Map)
対象を主体としたニーズ・支援とその生活を支える看護について理解する。	在宅で生活・療養をしている対象の支援と看護について理解を深めていく。5日間の実習の中で、対象の主体性とニーズをどのように看護を行い支援しているのかを学ぶ。そのためには、疑問に感じたことなどはそのままにせず、積極的に看護師や施設職員に聞き、理解を深めていくことが必要になる。また、対象を支え、ニーズにあった看護・医療技術も多く学べる。技術の事前・事後学習や振りかえりと共に、積極的な看護師や多職種への質問や関わりを行うことでより学びが深まる。 ・対象者が主体として考える看護 ・対象者が在宅療養または在宅での生活を過ごすことに対する希望やニーズ ・対象者の自己決定における看護師の役割 ・在宅看護における家族への影響 ・対象の日常生活援助技術と医療処置に伴う看護技術 ・対象に対する指導技術（教育技術・相談技術） ・対象者への関わり・配慮 ・職員の方の看護観や考え方を自ら聞いてみる	対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や多様な価値観をアセスメントし、共同目標の中で生活を支える看護の方向性が表現できる。	・事前学習 ・看護記録 I～VI ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)
継続看護について多角的な視点を持ち、考えを深めている。	訪問看護ステーション実習では、訪問看護の役割を考えることが必要である。在宅の場では医療職・看護職が常時、対象の側にいない。そのような中で、対象の状態をどう把握し、訪問時に看護を提供しているかを学ぶことで継続看護に対する考えが深まる。また、在宅では対象に多くの職種が関わっている。看護師だけでは対象を支えることはできない。そこにある多職種連携や看護師の役割、看護師間の情報共有（看看連携）などを考え・学ぶことで「継続看護とは」を深めることができる。 ・看護師間の情報共有方法について ・看護の特徴と機能 ・看護師の役割と実習施設以外からみた訪問看護の役割 ・看護の対象と特徴	様々な場での看護の特徴・機能や対象から地域における継続看護・看護の役割について多角的に理解し、表現する。	・事前学習 ・看護記録 I～VI ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map) ・レポート

訪問看護ステーション実習

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	訪問看護ステーション	・訪問看護ステーションの機能と役割を理解する。 ・在宅療養者とその家族に対する訪問看護の実際を理解する。 ・主体である療養者と家族の理解。 ・在宅療養者とその家族の健康上・生活上の問題の理解。 ・在宅における看護過程の展開の実際を理解。 ・社会資源とその連携・協働の実際を理解。 ・訪問時に必要なマナーや対象者への配慮について考える。	同行訪問による訪問看護実践の見学と体験 ・各訪問看護ステーションで、訪問看護ステーションの概要、業務などについてのオリエンテーションを受ける。 ・訪問に際しての諸注意を確認する。 ・どのような援助であっても訪問看護師の監視・指導のもとで実施する。 訪問看護の実際から、看護師の意図的なかわりを見出す。 ・看護師からの説明や看護師への質問、療養者や家族との関わりを通して、療養者の健康障害の特徴と療養者の健康障害がもたらす生活上の問題を知り、対象に必要な看護について考える。 ・看護師からの説明や看護師への質問、療養者や家族との関わりを通して、家族による介護の実際と介護負担の有無や家族への影響の実際を知り、家族が求めている看護の在り方や支援について考える。 ・訪問看護ステーションのスケジュールに沿って実習し、訪問以外の時間は、訪問ケースの情報収集や記録の整理を各ステーションで行う。 ・事前に訪問ケースが提示されている場合は、同行訪問の前日までに必ず訪問看護師に挨拶をし、事前打ち合わせを行う。(ケースの概要、訪問看護内容、見学・実施したいこと、訪問看護時間など) ・訪問の実際は、訪問看護記録に記述しまとめ、訪問看護記録は、翌日朝、各訪問看護ステーションの所長または指導者に提出する。 看護過程の展開 ・訪問した1ケースを事例としてあげ、看護過程を展開し、在宅における情報収集やアセスメントの特徴、問題点と看護計画立案のポイントを明確にする。 ・家族による介護の実施との役割分担や療養者と家族の主体性を意識したケアプランの立案について考える。 関連職種の役割を考える。 ・療養者が利用している社会資源の内容や関連職種の役割、連携の実際を知る。 ・看護師の訪問態度やコミュニケーションの実際から、訪問時に注意すべきマナーや訪問者としての態度、家族への配慮、看護師のあり方について考える。 3日～4日目 中間カンファレンス「対象者像を深め看護の方向性を検討する」 ・各訪問看護ステーションでカンファレンスをもつ。実習時間内にカンファレンス、または記録を深める
		・訪問看護ステーションでの学びを明らかに	

～ 16:15		し、助言を得ることで新たな気づきを得る。 ・療養生活を支える訪問看護の役割を考える。	時間を実習施設と調整をして決める。看護過程を展開する対象をこのカンファレンスまでに決め、指導者や教員から指導やアドバイスを受ける 5日目 最終カンファレンス「訪問看護ステーション実習での学び」 ・各訪問看護ステーションでカンファレンスをもつ。 ・実習最終日に行う予定だが、日時については、所長または指導者と実習初日に打ち合わせをする。 ・看護師に同行して自分がとらえた在宅療養者の対象像や療養上の問題、訪問看護師の看護実践の意図、訪問看護師の役割などについて学んだことを発表し、指導・助言を受け、体験の振り返りや意味づけ、課題発見の機会とする。
------------	--	---	--

<訪問看護ステーション実習の留意事項・記録について>

1) 実習方法について

- ・登校時の事故など緊急の場合は、各ステーションへ直接電話連絡し、学校にも連絡・報告する。
- ・学生の休憩、昼食に関しては、基本的には各実習場所とする。
- ・実習施設の使用方法、実習方法、実習態度など指導担当者から受けたアドバイスや注意事項など、実習学生として各グループに共通していく内容を引き継ぎ、次の実習学生が活かせるようにする。

2) 実習記録

(1) 実習記録：看護記録Ⅰ～Ⅵ

- ・訪問看護するケースの訪問目的や実習目標に沿って、自己の実習目標を立てる。
- ・援助の場面について、看護師の関わりと療養者の反応から、在宅療養の意義や問題や看護師のケアの意味を考えて記録する。
- ・実習中に受けた助言は、忘れずに記載する。

(2) 対象の看護過程展開の記録（記録Ⅲ-1・Ⅲ-2）

(3) 課題レポート（記録Ⅵ） テーマ 「訪問看護ステーションでの学び」

3) 実習記録類の提出について

実習記録は、以下の順で指定の表紙を使って綴じ、実習終了後の指定日時までに各グループまとめて教員に提出する。

- (1) 看護記録（記録Ⅰ～Ⅵ（記録Ⅲ以外））
- (2) 対象の看護過程展開の記録（記録Ⅲ-1・Ⅲ-2）
- (3) 課題レポート
- (4) 事前学習

4) 学生控室の使用方法

- ・各施設管理者の指示に従って使用する。
- ・学生用の控え室は、各ステーションによって異なるので、更衣、記録、休憩などに使用できる場所を実習担当者に確認する。
- ・テーブル・椅子等の使用には整理整頓を心がける。
- ・使用した部屋の清掃を行う。清掃用具については各訪問看護ステーションの指示に従う。
- ・ゴミは各自、責任もって片付ける。

- 5) 通学方法について
 (1) 公共機関および自転車、原付バイクを使用し、事前に教員に通学手段を報告しておく。
- 6) 外出について
 (1) 実習中はたとえ昼休み時間であっても施設からの外出はしない。
 (2) 特別な事情が生じた時は、指導担当者および教員に必ず申し出て、外出許可を得る。
- 7) 守秘義務について
 (1) 在宅療養者に関する情報や、来客者の相談内容等の秘密は絶対に漏らすことのないように注意する。
 (2) 在宅生活者に関して取ったメモ、記録類は厳重に管理すること。
 (3) 実習と関係ない人や、場所で、実習中に知り得た情報に関することを話題にしないこと。
 (4) 記録の氏名はアルファベットで記入する。住所など対象を特定できる情報は記載しないこと。
- 8) 持ち物について ※実習先により一部変更あり。申し送りを確認すること。
 (1) 訪問バックは学校の備品を使う。(血圧計、電子体温計)
 その他各自で準備するもの：擦式手指消毒薬、ビニールエプロン、ゴム手袋、アルコール綿、紙タオル、靴下(履き替え用)、聴診器、レインコート、かさ
 (2) 昼食
- 9) その他
 (1) 疑問や不明な点をそのままにせず、積極的に解決していく方法を取ることに。
 (2) 連絡・報告は徹底して行うようにし、実習中に事故が発生した場合は、指導担当者および教員に速やかに報告すること。
 (5) 学生として、節度ある行動をとり、在宅療養者家族への接し方には十分配慮する。
 (6) 在宅療養者やその家族からの贈答品類は一切受け取らない。
 (7) 訪問時、家庭調度品の取り扱いには十分注意する。

<保健福祉センター実習> 2時間×1日 9時間×2日 合計20時間

学習活動	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料
対象が利用している社会資源の説明ができる。	保健福祉センターについての事前学習と見学実習で学んだ保健福祉センターの機能や役割から知識・理解を増やしていく。また、実際に実習を行った事業で、対象が利用している社会資源を下記の内容で深める。対象の状況に応じて、変化させていく社会資源を法制度や保険制度の視点で深め、対象を中心に支えるケアや制度を包括的に理解する。 <保健福祉センター> 1) 保健福祉センターの機能と役割、対象の特徴と業務内容 2) 保健福祉センターの施設見学 3) 各種事業 (1) 母子保健事業とその概要 (2) 予防接種事業 (3) 成人保健事業 (4) 栄養指導事業 3) 関係法律 ・地域保健法、母子保健法、健康増進法、高齢者の医療の確保に関する法律	対象が利用している社会資源の法制度・根拠を説明でき、状況の変化に応じて必要な社会資源を表現している。	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)

	4) 関係する国の施策 ・健康日本21、ゴールドプラン21、エンゼルプラン ・障害者プラン 6) その他の健康に関する法律 ・予防接種法、感染症法 7) 地域特性		
対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから目標を共有する多職種連携や協働がわかる。	保健福祉センターでは小児から高齢者まで幅広い事業と保健師の関わりや多くの職種や地域住民との協働があり、各職種が対象の生活を支えるべく、協働・連携している。その連携・協働のための方法や保健師（看護として）はどのようにコミュニケーションをとって、チームの一員として活動しているかなどを学ぶことで目標に近づける。 ・関連職種の役割、援助内容 ・病院・施設や地域住民間での連絡方法 ・病院・施設や地域住民間での連携の在り方 ・病院・施設や地域住民間の目標共有方法と支援 ・対象を取り巻く地域や家庭の特性、生活の状態 ・多職種と看護師・保健師との関わりや、他職種からみた看護師・保健師像	対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから、多職種連携の共同目標と協働が対象の生活を支えることがわかる。	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)
対象を主体としたニーズ・支援とその生活を支える看護について理解する。	在宅で生活・療養をしている対象の支援と看護について理解を深めていく。実習は、2日間であり参加事業も多様であること、対象の主体性とニーズをどのように看護をして支援しているのかを学ぶ。そのためには、疑問に感じたことはそのままにせず、積極的に保健師や関連職員に聞き、理解を深めていくことが必要となる。また、対象を支えニーズにあった指導・教育技術も学べる。技術の事前学習や積極的な質問や関わりを行うことでより学びが深まる機会となる。 ・対象が主体として考える看護・保健活動（健康の回復・保持・増進・予防） ・対象が在宅療養または在宅での生活を過ごすことに対する希望やニーズ ・対象の自己決定における看護師・保健師の役割 ・在宅看護における家族への影響 ・対象に対する指導技術（教育技術・相談技術） ・対象への関わり・配慮	対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や多様な価値観をアセスメントし、共同目標の中で生活を支える看護の方向性が表現できる。	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)
継続看護について多角的な視点を持ち、考えを深めている。	様々な事業に参加し実習を行う中、保健活動にある看護の役割を考えることが必要となる。健康概念が多様化している中、対象の発達課題や生活背景をアセスメントし、どのように保健・看護活動を行っていくかを学ぶことが必要である。在宅の生活では、予防的な関わりも重要となっている。問題が表出している方だけの関わりではなく、対象の状況や背景などを包括的にアセスメントし、今後起こりうることにも関わっていく必要がある。このような関わりから、看護の役割、多職種間の情報共有などを考え・学び、「継続看護とは」を深める機会となる。 <保健福祉センター> ・対象情報	様々な場での看護の特徴・機能や対象から地域における継続看護・看護の役割について多角的に理解し、表現する。	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)

	・事業参加の結果とその後の経過について ・連携先の多様性		
--	---	--	--

保健福祉センター見学実習 ① 2時間

時間	場所	ねらい	学生の動き
9:30 ～ 11:30	清水保健福祉センター	・地域の健康に関する現状を知る。 ・地域の健康を守るための行政の働きを知る。 ・地域における保健活動や看護活動の理解 ・保健福祉センター実習の方法の理解と施設見学	・保健福祉センターの概要と地域保健活動に関する講義を受ける。 ・実習上の留意点について説明を受ける。 ・保健福祉センター内の施設見学 ・実習上の注意事項

保健福祉センター実習 ②③ (9時間×2日間=18時間)

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	清水保健福祉センター	・保健福祉センターの機能と役割を理解する。 ・地域で生活する人々の健康状況、生活環境を理解する。 ・健康の回復、保持、増進、疾病予防のために行われている事業の意義や目的を知る。 ・健康を守るためにある法律・施策と事業の関連を知る。 ・地域住民の健康の保持・増進への取り組みの実際を知る。 ・地域での健康を守るために活動する専門職の活動の実際・役割・連携の実際を知る。 ・保健師の活動の実際を知り、地域における健康を守る看護の役割について考える。	・控室を確認し、鍵を借用する。 ・朝礼に出席し、リーダーがまとめて本日の学生の動きを発表する。 ・朝礼終了後に、担当保健師と、本日の目標、参加事業の内容や留意点などについて打ち合わせ、参加対象、参加人数、実施場所、事業内容、必要物品、見学・実施したいことなどについて助言を得る。 ・保健福祉センターから事業先への移動に自転車を使うことがあるため、打ち合わせ時に借用する確認をとる。 ・実習記録は翌日にリーダーが全員分まとめて指導担当者に提出する。 ・リーダーは、当日のカンファレンスの時間、場所、担当者を確認しておく。 ・事業に参加するための準備をする。 事業参加について ・保健福祉センターや地域で行われている各事業に保健師と共に参加する。 ・事業の目的を意識し、保健師の意図的な関わりや地域住民の反応を観察し、看護の意味を考える。 ・地域保健事業に参加する住民との関わりを通して、人々の健康への関心や生活上の問題などを知る。 ・事業に参加している関係職種の活動を見学し、関係する職種のそれぞれの役割と、連携について考える。 ・健康教育やレクリエーション等を実施する場合は、事業の目的・対象者の状況に合わせて実施できるよう、保健師の指導をいただきながら、実施内容・使用媒体の検討をする。

～ 16:15		・保健福祉センターの活動の目的や対象者、専門職の介入の意図などについて学びを深める。	カンファレンスの実施（②・③日目） 「保健福祉センターで行われている事業の実際をもとに、地域にある健康問題を理解し、地域における看護とはどのようなものであるか考える」 ・清水保健福祉センターでのカンファレンス ・実習の事業が各個人違います。事業の対象やそこにある看護、法制度や役割などを含めてカンファレンスで話し合えると学びの共有につながります。 ・翌日の参加事業に関する打ち合わせを行い、助言を得る。
------------	--	--	---

<保健福祉センター実習方法の留意事項と記録について>

1) 実習方法について

- ・実習オリエンテーションでの内容を実習前に再度確認をする。
- ・実習施設の使用方法、実習方法、実習態度など指導担当者から受けたアドバイスや注意事項など、実習学生として各グループに共通していく内容を引き継ぎ、次の実習学生が活かせるようにする。

2) 実習記録類について

(1)看護記録Ⅶを4枚（2日分 1事業に対して1枚記入2枚／日）

(2) 事前学習

実習記録は上記の順で、指定の表紙とともに綴じ、実習終了後の指定日時までに各グループまとめて教員に提出する。

3) 実習控室の利用方法

(1) 場所と使用方法

- ① 施設管理者の指示に従って使用する。
- ② その日に学生が使用できる学生控室を、実習指導担当者に確認する。
- ③ 控室は、カンファレンス、実習中の学習、更衣、昼食休憩等に使用できるが、学生専用の部屋ではなく、事業等にも使用するので、テーブル、椅子等の使用には整理整頓を心掛け、私物の荷物はきれいにまとめておく。
- ④ 貴重品は各自で管理する。
- ⑤ 携帯電話は、電源も切っておく。
- ⑥ 各部屋を使用する場合は、その都度、3階事務室で鍵を借り、使用後は施錠を確認し、すみやかに鍵を返却する。

(2) 清掃について

- ①学生控室は、毎日清掃をする。
- ②各自のごみは持ち帰り、テーブル、椅子の整理整頓、掃き掃除、テーブルの拭き掃除を行う。

4) 服装について

- (1) 服装はポロシャツに紺または黒のスラックス、運動靴（華美でないもの）、靴下（白）とする。
- (2) 名札を着用する。

5) 通学方法について

- (1) 公共機関および自転車、バイクを使用し、事前に教員に通学手段を報告しておく。
- (2) 駐輪場は、実習オリエンテーション時に指示された場所を利用する。

6) 外出について

- (1) 実習中はたとえ昼休み時間であっても施設外へ、外出はできない。
- (2) 特別な事情が生じた時は、指導担当者および教員に必ず申し出て、外出許可を得る。

7) 守秘義務について

- (1) 地域住民に関する情報や、来客者の相談内容等の秘密は絶対に漏らさないように注意する。
- (2) 地域住民に関して取ったメモ、記録類は厳重に管理すること。
- (3) 実習と関係ない人や、場所で、実習中に知り得た情報に関することを話題にしないこと。
- (4) 記録の氏名はアルファベットで記入する。住所など対象を特定できる情報は記載しないこと。

8) 持ち物について ※実習先により一部変更あり。申し送りを確認すること。

- (1) 体育館シューズ（必要時）
- (2) 名札
- (3) 必要時、運動のできる服装、調理実習用エプロン
- (4) 母子保健事業用エプロン（きりん・くま柄）を学校から持参する。
- (5) 昼食

9) その他

- (1) 事前に事業目的や方法などは調べておき、主体的かつ計画的に行動すること。
- (2) 当日予定していた事業計画が変更になることもあるので、いつでも対処できるように持ち物の準備をしておくこと。
- (3) 疑問や不明な点をそのままにせず、積極的に解決していく方法を取る。
- (4) 連絡・報告は徹底して行うようにし、実習中に事故が発生した場合は、指導担当者および教員に速やかに報告すること。
- (5) 学生として、節度ある行動をとり、地域住民への接し方には十分配慮する。

<地域連携実習> 9時間×2日間

静岡市立清水病院地域医療支援室
 静岡市立清水病院血液浄化センター
 しみず社会福祉事業団 障害者相談支援センターわだつみ
 WAC 清水さわやかサービス 居宅介護支援事業所
 上記4か所のうち2か所で実習となります。

<地域医療支援室>

学習活動	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料
対象が利用している社会資源の説明ができる。	事前学習で地域医療支援室の役割や機能について調べる。対象が利用している社会資源を下記の内容で学ぶ。対象の状況に応じて、変わっていく社会資源を法制度や保険制度の視点で深め、対象を中心に支えるケアや制度を包括的に理解していく。 ・社会福祉制度の概要 ・地域医療支援室の役割 ・退院支援のシステム ・ソーシャルワーカーとして関わる専門職の種類と業務内容 ・施設の対象者の特徴と業務内容 ・継続的な医療の提供と・対象の健康状態 ・地域連携クリティカルパス	対象が利用している社会資源の法制度・根拠を説明でき、状況の変化に応じて必要な社会資源を表	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)

		現している。	
対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから目標を共有する多職種連携や協働がわかる。	地域支援医療室では多職種があり、各職種が対象の生活を支えるべく、協働・連携している。同じ施設内・他施設内など地域で暮らす対象を支えるために、職種・施設の連携・協働がどのように行われているかを学ぶ。 ・在宅看護に必要な連携機関 ・関連職種の役割、援助内容 ・病院・施設や地域住民間での連絡方法 ・病院・施設や地域住民間での連携の在り方 ・病院・施設や地域住民間の目標共有方法と支援 ・対象を取り巻く地域や家庭の特性、生活の状態 ・連携シートやケアプランの確認 ・多職種と看護師との関わりや、他職種からみた看護師像や、看護に対する思い	対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから、多職種連携の共同目標と協働が対象の生活を支えることがわかる。	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)
対象を主体としたニーズ・支援とその生活を支える看護について理解する。	病院から在宅や次の生活の場・療養を検討している対象の支援と看護について理解を深める。実習は、1日のみ実習場所となっており、その中で、対象が主体性とニーズをどのように看護をして支援しているのかを学ぶ。そのためには、疑問に感じたことはそのままにせず、積極的に看護師や職員に聞き理解を深めていくことが必要となる。 ・対象が在宅療養または在宅での生活を過ごすことに対する希望やニーズ ・対象の自己決定における看護師の役割 ・在宅看護における家族への影響 ・対象に対する指導技術（教育技術・相談技術） ・対象への関わり・配慮 ・退院支援を必要とする対象者の特徴 ・患者・家族への関わりと患者の思いを大切にする関わり ・在宅への移行に必要な支援（退院支援）の実際 ・退院支援に必要な看護師の役割	対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や多様な価値観をアセスメントし、共同目標の中で生活を支える看護の方向性が表現できる。	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)
継続看護について多角的な視点を持ち、考えを深めている。	病棟の看護師・退院調整看護師の視点や他職種からの退院調整などの専門職からの視点を学び、多職種連携と看護師の役割を学ぶ。違う立場になった時に、継続看護はなにが必要かなどを考え、場や役割が違う時の看護師の役割の変化や特徴を捉えることが必要となる。切れ目のない看護の必要性や、生活が変化する対象にとっての看護の必要性を考え、体験することによって看護の多角的な視点を深める機会となる。 ・施設間での看護の情報共有方法について ・各施設での看護師の役割 ・各施設での看護の特徴と機能 ・実習施設以外からみた看護の役割 ・看護の対象と特徴	様々な場での看護の特徴・機能や対象から地域における継続看護・看護の役割について多角的に理解し、表現する。	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map) ・レポート

地域医療支援室実習 (9時間×1日)

実習日	実習場所	ねらい	学生の動き
8:30 ～ 16:15	静岡市立清水病院 〔地域医療支援室〕	・地域医療支援室の体験から、専門職の業務や病棟看護師との連携の実際、社会資源の提供の実際、関連職種との連携の実際を知る。 ・在宅への移行に必要な支援と看護師の役割の理解。 ・退院支援の実際を学び、在宅の生活へ移行するための病棟の看護師の役割と連携室の役割、それを受けて継続看護する訪問看護の意義について考える。	・MSWとの関わりから、退院支援に関わる専門職とはどのようなものか知る。 ・連携の場面(相談場面、病棟訪問、病棟でのカンファレンス)で、連携の実際を見学する。 ・MSWとの関わりの中で、該当するケースの抱える問題や、今後の方向性、必要な社会資源やアプローチについて知る。 ・退院支援や地域連携、在宅療養を支えるために必要な看護とはなにか、看護師(病棟・訪問看護ステーションなど)の役割について考えをまとめる。 ・同行内容によっては、16時頃になる場合もある。病院外への同行もあり。

<静岡市立清水病院地域医療支援室実習の留意事項>

1) 服装について

- ・実習時の服装は、ユニフォームとする。

<血液浄化センター>

学習活動	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料
対象が利用している社会資源の説明ができる。	血液浄化センターについて事前学習で調べる。実際に実習を行い、対象が利用している社会資源を下記の内容で深める。対象の状況に応じて、変わっていく社会資源を法制度や保険制度の視点で深め、対象を中心に支えるケアや制度を包括的に理解していく。 ・対象の健康状態 ・施設の設置主体・目的・法制度 ・施設の機能と役割 ・施設の対象者の特徴と業務内容 ・高額医療費助成制度、障がい者手帳などの医療制度	対象が利用している社会資源の法制度・根拠を説明でき、状況の変化に応じて必要な社会資源を表現している。	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)
対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから目標を共有する多職種連携や協働がわかる。	血液浄化センターでは多職種がおり、各職種が対象の医療・生活を支えるべく、協働・連携している。看護職として、連携時に必要な事や確認などを実際の場にて体験をする。対象には患者・家族が含まれており、双方にむけた目標の共有や協働についても学べる機会となる。 ・関連職種の役割、援助内容 ・病院や対象との連絡方法 ・病院や対象の目標共有方法と支援 ・対象を取り巻く地域や家庭の特性、生活の状態 ・多職種と看護師との関わりや、他職種からみた看護師像や、看護に対する思い	対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから、多職種連携の共同目標と協働が対象の生活を支えることがわ	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)

		かる。	
対象を主体としたニーズ・支援とその生活を支える看護について理解する。	在宅で生活・療養をしている対象の支援と看護について理解を深めていく。実習は、1日のみの実習場所となっている。その中で、透析を受けている対象や家族が主体となるように、そのニーズをどのように看護をして支援しているのかを学ぶ。そのためには、疑問に感じたことなどはそのままにせず、積極的に看護師や専門職種に聞き、理解を深めていくことが求められる。 また、対象を支える・ニーズにあった透析看護・医療技術も多く学べるため、技術の事前学習や積極的な質問や関わりを行うことでより学びが深まる機会となる。 ・対象が主体として考える看護 ・対象が在宅療養または在宅での生活を過ごすことに対する希望やニーズ ・対象の自己決定における看護師の役割 ・在宅看護における家族への影響 ・対象の日常生活援助技術と医療処置に伴う看護技術 ・対象に対する指導技術（教育技術・相談技術） ・対象者への関わり・配慮 ・在宅療養の継続と透析療法による健康状態の維持 血液透析をうける患者について 1) 原疾患、透析療法の実際（回数、時間、条件） 2) 透析患者の健康状態（健康障害） 3) 透析療法に伴う苦痛 4) 透析療法や治療を継続することでの生活障害 5) 透析療法時の生命危機 6) 透析療法や治療を継続することでの精神・心理的問題 6) 家族への思い、透析療法を支援する家族の状況 7) 透析療法や治療を継続することで家族が抱えている問題 8) 療養者を支える社会保障制度の理解	対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や多様な価値観をアセスメントし、共同目標の中で生活を支える看護の方向性が表現できる。	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)
継続看護について多角的な視点を持ち、考えを深めている。	透析療法の特徴からの継続看護について学ぶ。対象は他の治療や訪問看護を受けている方もいます。多くの医療的な関わりがある中、看護として継続していくためには、どのような視点が必要かを考え、深めていくことが必要となる。 ・施設間での看護の情報共有方法について ・看護師の役割 ・看護の特徴と機能 ・実習施設以外からみた看護の役割 ・看護の対象と特徴 ・対象のカルテ	様々な場での看護の特徴・機能や対象から地域における継続看護・看護の役割について多角的に理解し、表現する。	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (プロセスチャート) ・レポート

血液浄化センター実習 (9時間×1日)

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30	清水病院・血液浄化センター	・血液透析の原理と実際を知ることができる。 ・血液透析を受ける療養者とその家族の、健康上・生活上の問題を理解することができる。 ・血液透析を受ける療養者への看護の実際を見学し、看護の役割を考慮することができる。	8:15 穿刺見学 ・穿刺から透析開始、透析終了までの流れと看護の実際を見学する。 ・オリエンテーションを受ける。 ・透析看護認定看護師より透析看護について講義・説明を受ける。 ・透析中の看護の実際を見学 看護師・患者に2～3人ずつ付かせていただく。 透析療法を受けている患者とのコミュニケーションをとおして、療養の実際や抱える問題を探る。 血液透析の実際 1) 看護の実際の見学 (1)ブラッドアクセスの実際と管理方法 (2)スリルの確認 (3)穿刺、止血、シャント部の観察 (4)バイタルサイン、体重管理 使用薬剤と副作用 (5)血液透析中の生活援助（食事、排泄など） (6)血液透析中の安全管理 2) 血液透析の合併症、身体的苦痛・透析と生活リズム、自己管理（食事療法、日常生活） 3) 血液透析を受ける療養者の社会生活、社会復帰と社会保障制度 ・ 返血・透析終了時の看護の見学
～ 14:00		・血液透析を受ける在宅療養者とその家族の生活の理解と看護の果たす役割を考える。	・カンファレンスにより、透析療法を受けながら在宅で療養する患者とのコミュニケーションをとおして知った、療養上の問題や生活上の工夫などを共有する。 テーマ「血液透析を受ける在宅療養者とその家族の生活の理解と看護の果たす役割」

＜静岡市立清水病院血液浄化センター実習の留意事項＞

1) 服装や持ち物について

- ・実習時の服装は、ユニフォームとする。聴診器を持参する。
- ・知り得た情報を決して漏らすことのないようにし、個人情報の保護に留意する。
- ・実習までに「血液透析穿刺」の動画を各個人でみておく。

2) カンファレンスについて

- ・カンファレンスは血液浄化センターで行います。
- ・テーマ「血液透析を受ける在宅療養者とその家族の生活の理解と看護の果たす役割」を受け持たせていただいた対象や看護師との関わりなどからカンファレンスを行います。生活背景や透析に対する考え方など個別性があります。意図的に看護師として関わるにはどのような看護が必要かなどを話し合えると、透析看護が深まります。

障害者相談支援センター・居宅介護支援事業所

学習活動	学習内容・学習方法	評価基準	評価資料
対象が利用している社会資源の説明ができる。	事前学習を基本に、地域包括支援センター・障害者相談支援センター・居宅介護支援事業所の機能・制度について調べる。健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うために、必要な視点や専門的知識を知り、下記の内容で深める。生活状況やニーズに応じて、法・制度を使って、対象を中心に支えるケアマネジメントの構築を知る。日常の困りごとと必要な社会資源を繋げる視点を理解する。 ・地域の健康問題や困りごとの ・施設の設置主体・理念・法制度 ・施設の機能と役割 ・施設の対象者の特徴と業務内容	対象が利用している社会資源の法制度・根拠を説明でき、状況の変化に応じて必要な社会資源を表現している。	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ（プロセスチャート）
対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから目標を共有する多職種連携や協働がわかる。	地域包括支援センター・障害者相談支援センター・居宅介護支援事業所の各専門職が対象の生活を支えるために行っている協働・連携の実際を知る。 ・ケアマネジメントの視点とケアプラン構築方法 ・インフォーマルサービスを含むチームの目標共有方法、連携の在り方と連携方法の実際 ・対象を取り巻く地域や家庭の特性、生活状況の中から起こる問題の解決方法を知る ・多職種と看護師との関わりや、その人を中心とするチームから求められる看護師像をイメージする	対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから、多職種連携の共同目標と協働が対象の生活を支えることがわかる。	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ（プロセスチャート）
対象を主体としたニーズ・支援とその生活を支える看護について理解する。	地域包括支援センターの看護職に求められる役割について考える ・対象の健康状態と生活状況の把握 ・対象の在宅療養や在宅生活に対する希望やニーズと目標設定 ・対象の自己決定における専門職の役割 ・家族支援に必要な専門職の役割	対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や多様な価値観をアセスメントし、共同目標の中で生活を支える看護の方向性が表現できる。	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ（プロセスチャート）

継続看護について多角的な視点を持ち、考えを深めている。	住民の健康保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことが「継続看護」にどのようにつながるのかについて、看護師の専門性と他の職種の専門性を踏まえて考えを深める。 ・病院も地域のサービス提供の場のひとつである。「時々入院、ほぼ在宅」を叶える病院と地域とを結ぶ看護の在り方を考える。	様々な場での看護の特徴・機能や対象から地域における継続看護・看護の役割について多角的に理解し、表現する。	・事前学習 ・看護記録Ⅶ ・カンファレンス ・面談 ・まとめ（プロセスチャート） ・レポート
-----------------------------	--	--	---

障害者相談支援センター・居宅介護支援事業所実習

時間	場所	ねらい	学生の動き
8:30 ～ 16:15	各実習場所	・地域で生活する人々の健康や生活の困りごとの相談業務を知る。 ・地域で生活する人々の生活を支援するための事業の実際を知る。 ・看護職の活動の実際を知り、看護師の役割について考える。 ・保健医療福祉の中での看護の役割を考える。	8:30 現地集合 出欠席確認 オリエンテーション (各施設で実習開始・終了時間が異なります。オリエンテーション時に担当教員に確認して下さい) 相談、訪問業務の担当者に同行する。

<障害者相談支援センター・居宅介護支援事業所の留意事項>

1) 事業参加について

- ・服装はポロシャツに紺または黒のスラックス、運動靴（華美でないもの）、靴下（白）とする。
- ・その他、持ち物は事業内容に沿って準備する（オリエンテーション時に説明）。
- ・各事業では、実習担当者や事業担当スタッフの指示で動くようにする。
- ・地域住民に関する情報や相談内容は絶対に漏らすことのないように留意する。

<地域連携実習の記録について>

- ・看護記録Ⅶを記入し、翌日または当日、担当教員に提出する。

<学内まとめ>

目的：体験・学んできた地域・在宅看護論実習で体験・学んできたことをグループ間で共有し、お互いの学びを深め、自己の振り返りを行う。

場所：静岡市立清水看護専門学校 時間：8：30～14：45（7 時間）

方法：①各個人で体験・学んだことを共有する（ミーティング）

②地域看護活動を通して、実習での場面を踏まえて看護の機能と役割について思ったことや考えたことをテーマに毎日 1 枚ラベルを記入する。

③ラベルの書き方

- ・はじめに月日を記入する。場面は、その状況がわかるように記入する。
- ・場面から抱いた思い・考えを具体的に他の人が読んでも意味が分かるように、20～50 字の一文で書くように心がける。
- ・ラベルの下には、グループ、実習場所、氏名を記入する。

④プロセスチャートの作成

- ・「私の考える地域・在宅看護とは」のテーマをもとにラベルを用いて作成する。
- ・実習目標や体験などをもとに表現していく。

⑤プロセスチャートをグループで発表・質疑・応答を行い、必要時追加・修正を行う。

私の考える地域・在宅看護とは～である
(模造紙)

プロセスチャートを通して
学んだこと

Ⅵ 地域・在宅看護論実習計画 (例)

	/	/	/	/
	保健福祉センター①		訪問看護ステーション①	訪問看護ステーション②
実習内容	臨床講義 施設見学 実習上の留意事項	(オリエンテーション)	訪問看護師との同行訪問	訪問看護師との同行訪問
提出記録				訪問看護ステーション記録
c f				
	/	/	/	/
	訪問看護ステーション③	訪問看護ステーション④	訪問看護ステーション⑤	地域連携実習
実習内容	訪問看護師との同行訪問	訪問看護師との同行訪問	訪問看護師との同行訪問	MSW、看護師などに同行して、継続看護や多職種連携の実際を学ぶ。
提出記録	訪問看護ステーション記録	訪問看護ステーション記録	訪問看護ステーション記録	訪問看護ステーション記録 訪問看護ステーション実習レポート
c f	中間c f		最終c f	在宅療養支援の実際から、支援と継続療養における看護師の役割を考える。
	/	/	/	/
	地域連携実習	保健福祉センター②	保健福祉センター③	学内
実習内容	MSW、看護師などに同行して、継続看護や多職種連携の実際を学ぶ。	保健師に同行して保健事業に参加する。	保健師に同行して保健事業に参加する。	まとめ 各自の学びの共有 下記テーマにそってプロセスチャートを作成。発表・質疑応答後、c fの学びを追記する。
提出記録	在宅看護論実習記録	在宅看護論実習記録	在宅看護論実習記録	在宅看護論実習記録
c f	在宅療養支援の実際から、支援と継続療養における看護師の役割を考える。		事業での体験を通して、地域にある健康問題と看護の役割を考える	テーマ「私の考える地域・在宅看護とは～である」

学習活動	具体的な評価基準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一步努力を要する
対象が利用している社会資源の説明が出来る。	対象が利用している社会資源の法制度・根拠を説明でき、状況の変化に応じて必要な社会資源を表現している。	対象理解 探求心	事前学習 在宅看護記録 面談	対象が利用している社会資源を制度・根拠を明確にし説明でき対象の変化に応じて必要な社会資源を説明している。(15)	対象が利用している社会資源を制度・根拠を明確し必要な社会資源を説明している。(10)	対象が利用している社会資源を一部説明できる。(7)	対象が利用している社会資源が提示できる。(1)
対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから目標を共有する多職種連携や協働がわかる。	対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから、多職種連携の共同目標と協働が対象の生活を支えることがわかる。	対象理解 探求心	事前学習 在宅看護記録 カンファレンス	対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから、多色連携や協働が対象の生活を支えていることがわかる。(30)	対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから、多職種連携や協働がわかる。(20)	対象が利用している社会資源から多職種連携や協働がわかる(10)	社会資源から多職種連携がわかる。(5)
対象を主体としたニーズ・支援とその生活を支える看護について理解する。	対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や多様な価値観をアセスメントし、共同目標の中で生活を支える看護の方向性が表現できる。	対象理解 実践力 倫理観	在宅看護記録 カンファレンス 面談	対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や多様な価値観をアセスメントし、対象の生活を支える看護の方向性がわかる。(25)	対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や多様な価値観をアセスメントし看護の方向性を表現している。(20)	対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や価値観をアセスメントしている。(7)	利用者または家族のどちらかの特性・ニーズ・必要な支援がわかる(1)
継続看護について多角的な視点を持ち、考えを深めている。	様々な場での看護の特徴・機能や対象から地域における継続看護・看護の役割について多角的に理解し、表現する。	調整力 探求心	在宅看護記録 カンファレンス レポート 面談	各施設での看護の特徴・機能や対象から、課題に対して生活者・他職種や看護師などの視点から多角的な視点で地域での継続看護・看護の役割について自己の言葉で表現する。(20)	各施設での看護の特徴・機能や対象から、課題に対して生活者・他職種や看護師などの視点から継続看護・看護の役割について記述する。(15)	看護の特徴・機能や対象から地域における継続看護・看護の役割についての中心となる考えをつかむことができる。(10)	対象から地域における継続看護または看護の役割について状況や特徴を説明することができる。(5)
看護の対象や仲間の尊厳、安全を護り、医療者として誠実に行動する	医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている	倫理観	日常行動 実習の様子 課題等提出物 出席状況 面接	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る為に適切な行動をとり、仲間の模範となりチームをけん引している。(10)	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動を心がけている。至らない時は学び、行動を変えている。(7)	看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るという点で自己の行動を振り返っている。(5)	自分の行動が看護の対象や仲間を危険に曝している。(0)

欠課時間

()時間／90 時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点

実習指導者サイン

担当教員サイン